

平成 17 年 5 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社 トップカルチャー
代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄
(コード番号7640・東証 第1部)
問合せ先 専務取締役総務部長 渡辺 俊一
T E L 025-232-0008
<http://www.topculture.co.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 12 月 8 日の決算発表時に公表した平成 17 年 10 月期（平成 16 年 11 月 1 日～平成 17 年 10 月 31 日）の中間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、通期業績予想については、変更ありません。

記

- 1．平成 17 年 10 月期中間業績予想数値の修正（平成 16 年 11 月 1 日～平成 17 年 4 月 30 日）
（単位：百万円、％）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	12,000	450	236
今 回 修 正 予 想 (B)	11,497	331	160
増 減 額 (B - A)	503	119	76
増 減 率 (%)	4.2	26.4	32.2

- 2．平成 17 年 10 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 16 年 11 月 1 日～平成 17 年 4 月 30 日）
（単位：百万円、％）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	12,300	455	240
今 回 修 正 予 想 (B)	11,837	337	163
増 減 額 (B - A)	463	118	77
増 減 率 (%)	3.8	25.9	32.1

- 3．修正の理由

- (1) 売上高

当社単体の既存店売上高が当初見込を下回り前年比 98.4%に留まりました。

主な要因は、販売用 CD・DVD の売上がビッグタイトル不足により第二四半期の見込みを下回ったこと、及び、レンタルにおいて対競争上積極的な価格戦略を取ったことであります。

連結においても単体の減収を受けて上記の見通しとなりました。

(2) 経常利益・当期純利益

(1) のとおり売上高が当初見込を下回ったこと、また、期中にレンタルの競争力強化を目的として映像ソフトの定番ロングセラー商品についてDVDを大量投入し、VHSからDVDへの切り替えを一気に行ったことによる商品仕入投資の増加、及び、4月に他社より店舗を譲り受け開店した深谷店の営業権を当中間期で一括償却したこと等により、経常利益・当期純利益も下回る見込であります。

連結においても単体の利益の減少を受けて、上記の見通となりました。

4. 通期業績見通し

(1) 通期業績予想については変更ありません。

(2) 理由

上期にDVDレンタル商品を大量に導入した効果が見込まれます。

引き続き、書籍、文具が好調で業績を下支えすることが見込まれます。

上期に大規模な改装を行った5店舗の改装効果が見込まれます。

5. ご参考：平成17年10月期通期業績予想数値（平成16年11月1日～平成17年10月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	24,000	885	480
今回修正予想(B)	24,000	885	480
増減額(B-A)	0	0	0
増減率(%)	0	0	0

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）45円34銭

6. ご参考：平成17年10月期連結業績予想数値（平成16年11月1日～平成17年10月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	24,540	900	490
今回修正予想(B)	24,540	900	490
増減額(B-A)	0	0	0
増減率(%)	0	0	0

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）46円29銭

以上